

## アメリカ海外研修 ダラス～ラスベガス～シアトル



Achilles USA 様



samsill 様

今回初めての海外ということ  
で全てのことが初めての体験  
でした。海外の人との交流、  
市場規模、技術など様々なこ  
とを学ぶことが出来ました。  
自身の世界が広がったアメリ  
カ研修になりました。この経  
験を仕事、生活にも生かして  
いきたいです。 則武



Catalina Graphic Films 様



初めてのアメリカ上陸、イメージ  
では怖くて物騒なイメージがあり  
ましたが、カタコトの英語もなん  
とか理解してくれようとしてくれ  
て助かりました。アメリカの仕事  
環境は美味で雑なイメージがあり  
ましたが、すごく真面目で休憩を  
削ってでも早く終わらせるという  
スタイルで驚きました。仕事面だ  
けでなく生活環境的にも大変勉強  
になりました。 加藤(俊)

### 技術とアイデアが作る未来

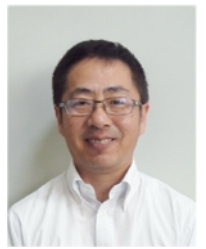
森 直樹 (代表取締役社長)



去る5月10日、アメリカにてある有名企業が上場しました。ご存知でしょうか？「ウーバーテクノロジー」です。ソフトバンクが筆頭株主です。そもそも「ウーバーテクノロジー」とはどのような企業か？元々はタクシー配車サービス「ウーバー」を開発し世界各国で普及させました。客待ちの車と、タクシーに乗りたい顧客を位置情報を使ってマッチさせることで新たな市場を作りました。そして飲食の宅配サービスである「ウーバーイーツ」等関連サービスもあります。日本でも展開しており、今後より知られてくることでしょう。ニューヨーク証券取引所にて上場し、90億ドルの調達を目指しました。(残念ながら結果は目標額には届きませんでした。それでも時価総額で世界有数のIT企業となりました)実際にダラス、ラスベガス、シアトルと米国滞在時にウーバーを利用してみましたが、いつでも10分とかからず配車される便利さと、登録済みのクレジットカード決済はその場での決済自体が不要でタクシーでの移動と比較してかなり便利でした。「ウーバー」は新しい乗り物を開発したわけでもなく、空いている車と移動したい人を繋げる仕組みを作りました。自動車も、タクシーサービスも元から存在していたものです。インターネットと位置情報サービス、スマホの登場がこれを可能にしました。サービスを開発しただけでも人々の生活に大きなインパクトを与えますし、ビジネスの発想はあらゆるところに有ることを改めて感じます。もちろんこれはIT業界での話なので、我々も人々の生活につながる製造業に関わるものとして、地道な商売を続けつつ、より高くアンテナを張り、社会や生活をより良くする商品を出すことができる企業を目指していきます。

## ふるさと納税

村田 恒夫（経理部）



ふるさと納税の制度は、創設から10年経ち、総務省はその返礼品が年々高額なものになっていることに対し、規制を求め続けていましたが、6月から始まるふるさと納税の新制度の対象から、総務省は基準（返礼率を30%以下に抑えるよう指導）を超える返礼品で多額の寄付を集めてきた大阪府泉佐野市・静岡県小山町・和歌山県高野町・佐賀県みやき町の4市町を除外する方針を固めました。6月1日以降、この4市町に寄付しても税金の優遇が受けられなくなります。除外される見通しになった4市町は、返礼品が“お得”なことで知られていました。新制度では、返礼品について調達費が寄付額の30%以下の地場産品に限り、総務省が基準に適合した自治体を指定する方式になりました。ふるさと納税とは、ふるさとや応援したい自治体に寄付ができる制度のことです。手続きをすると、自己負担額2,000円を除いた寄付の全額が所得税・住民税から控除されるしくみです。ただし、家族構成、年収、医療費控除や住宅ローン控除などにより一定の上限が決められており、上限を超えた部分は控除されないので注意が必要です。多くの自治体では地域の名産品などのお礼の品も用意、寄付金の使い道が指定でき、お礼の品もいただける魅力的な仕組みです。私がふるさと納税の制度を知ったのは5年前ですが、以後、毎年ふるさと納税にて寄付を継続してお礼の品をいただき、確定申告にて所得税・住民税の還付・控除を受けています。このふるさと納税を通じて、寄付という形で地域活性化に貢献できるだけでなく、今まで知らなかった地域での特産品（西伊豆の金目鯛の煮付け、飯山市の幻の米、浜田市ののどぐろ、その他シャインマスカット等）を知るキッカケにもなりました。6月からの新制度により返礼率が30%以下にはなりますが、お得に楽しく節税できる魅力的な制度だと思いますので、今後もふるさと納税にて寄付を継続していきたいと思っています。

## ゴールデンウィークの思い出

伊東 義弥（特販部）



今年のゴールデンウィークは、10連休の方が多かったと思います。また、GW中に元号も「平成」から「令和」に代わりましたね。気持ち新たに頑張っていこうと思います。私は、GWなどの大型連休では高校時代の部活仲間と必ず集まります。毎年3月ごろから計画をしているところへ行くのですが、今年は少し遅く、4月から計画をしました。みんなで今年は日間賀島へ行こうとしたのですが、4月からではゴールデンウィーク中の予約が取れず最終的には常滑のりんくうビーチでBBQをすることになりました。常滑のりんくうビーチは、昔は自由にBBQをすることができたのですが、現在は区画が決まっており、予め区画を予約してからその場所で行うようになったとのこと。1区画の大きさは40平方メートルで、朝8時から夜7時まで利用が可能です。料金は、1,200円/区画となっています。区画を借りるだけで、BBQができる設備が整っているわけでもなく、ロープで仕切られているだけのため、セットはすべて持ち込まなくてはいけないので少し煩わしいですが、専用駐車場（1日1,000円の駐車料金がかかる）からBBQエリアまではそんなに遠くないので、家族や友人同士でやる分には大変おすすめです。結局この日集まったのは子供も合わせて12人でやったのですが、1区画で十分やることができました。集まる友人たちも結婚していき子供も増えてきてどんどんにぎやかになっていきます。高校生からのこの縁を大切にしていき来年は日間賀島でやりたいと思います。





## 話題のドラマ「わたし、定時で帰ります。」 河嶋 桂子（東京オフィス）



このドラマは、残業はしない、有給は消化するがモットーのヒロインが、サービス残業の強要・パワハラ・ブラック上司・古い体質に翻弄される様子を通し、働くとは何かを描いた物語です。毎回、労働観の違う社員たちの世代間の衝突が描かれています。作者は、「就職氷河期世代」と呼ばれる時代に、「仕事は無理をしてやるものだ」と働いた世代で、新人に「なぜあなた方の世代は、命を削ってまで働くのか」と言われた事からこの作品を書いたという事です。一昔前は、職場にいるのは仕事最優先の人ばかりだった。だが、今は違うのだ。仕事以外に大切なものを抱えている人もいて、それが家庭だったり、宗教だったりするが、誰もが同じ価値観ではない事を受け入れていく時代。柔らかいタイトルに反して、シリアスな問題作だなど、毎週楽しみにしています。「定時に帰る」ヒロインも、決して仕事をサボっているのではありません。効率よく仕事を進めるために、整理整頓を完璧にして、やるべきことは綿密にタスク管理し、業務時間内に手際よく進めていくのです。この姿勢は見習うべきところがあります。無理・無駄を徹底して省いているから、定時退社が実現出来ているのです。作者は、倒れるまで働かないと、止まらない。止まるなんて考えられない。そんな時代を駆け抜けてきましたが、その常識はこの10年であつという間に変わったと、「倒れる前に逃げろ」という選択肢が普通にあるのが今の常識だと言っています。しかし、またその常識も違う形に変わっていくのかも知れません。私自身は、「新人類」と呼ばれた世代。ヒロインとも全く世代が違います。会社員として働いていた20代に「男女雇用機会均等法」が発令されて、商品開発のため、また商品紹介のため全国を駆け回る業務を担っていましたが、まだ「寿退社」が主流の時代でした。私はそんな働き方はしていませんが、「24時間、戦えますか」なんていう栄養ドリンクのCMが流行ったなど思い出します。働き方は多種多様になっている現在。金子みすゞさんではないですが、「みんなちがって、みんないい」の精神で、柔軟に仕事に臨める環境が望ましいのかも知れません。また、ドラマは劇的なハッピーエンドにはなりませんが、その部分もある意味面白いです。

## メタボ対策 その後

岩間 正美（森松産業）



波紋 2018年12月号で「メタボ対策」という記事を投稿し、その時に8月～12月までの運動で体重が68.5Kg→65Kg前後になりマイナス3.5Kg、BMI24.3→23、体脂肪率24.7%→21.5%、内臓脂肪レベル13.5→12.5、体内年齢53歳→49歳となったことを書きました。その後、デスクマットの需要期、病気入院でジムへ行くことがなかなかできませんでしたが、自宅での運動や今年に入ってから始めた、休日の早朝に自宅周辺でのジョギングは続けています。最初はジムのランニングマシンで2Kmくらい走っていたので、その距離からスタートし、今では6Kmくらいを走っています。コースは、自宅を出てすぐに車が通行止めとなっている衣浦港へ続く堤防沿いを1Kmくらい走り、半田運河沿いにしばらく走ると蔵が立ち並び、散策路の整備されたところへです。早朝の清々しい空気を吸い、行きかう人と朝の挨拶を交わしながらゆっくり走るのもいいものであります。そんなジョギングの効果もあり、運動を始めた昨年8月に比べ体重68.5Kg→63Kg前後、BMI24.3→22.1、体脂肪率24.7%→20%、内臓脂肪レベル13.5→11.5、体内年齢47歳と自分なりにかなり改善されてきたと思います。今年で還暦となります。今後も健康で過ごしていけるように筋トレ、ジョギングは続けていこうと思います。





# イオンモール新瑞橋ものづくりフェスタ 2019 開催！

4/29、30の2日間、新瑞橋イオンにてものづくりフェスタが開催されました。なんと200名近くの方が来場され、2日間大盛況となりました。  
来場された皆様誠にありがとうございました。



## LINEスタンプ

河野 光代 (特販部)



みなさんも、スマートフォンでLINEをしていますよね。LINEスタンプも使っていますよね。スタンプは、文字で伝えるだけより、感情がより伝わりやすいですよね。無料のスタンプもあれば、有料のスタンプもあります。森松では、自社キャラクターのマモーリンのスタンプがあります。当時、デザイナーさんが作成し、「販売して儲けるぞ！」と話題になりました。私も初めは無料のものを使っていましたが、LINEポイントがたまってきたのもあり、ポイントでキャラクターものを買って使っていました。ある日娘が「義姉が、子供(孫)の写真でスタンプを作ってくれた！」と言って、見せてくれました。なんてかわいいスタンプなのでしょう！「お母さんも買えるよ」と言われ、ポイントで買いました。さっそく使ってみましたが、かわいくて、周りからの評判のいいこといいこと！「河野さんが作ったの？どうやって作ったの？」と聞かれましたが、「知らない...。作ってもらったのを買っただけだから。」と2年ぐらい使っていました。子供の成長とともに、スタンプの写真が合わなくなったのと、孫も増えて「新しいスタンプが作れないかなあ。」と思って「LINEスタンプの作り方」を検索しました。なんと、アプリで作れるみたいで、早速「LINE CREATOR STUDIO」というアプリをダウンロードして、作成してみました。スマートフォンで作れば、簡単簡単。試行錯誤をしながら、時間はかかりましたが、16個作ってみました。(8個から作れます。)ここからはLINEへ申請し、1~2週間ほど待ちます。昨夜、やっとここまでできました。場合によっては、審査に通るように変更をしなければいけないこともあるそうです。審査が通れば、自分もポイントでスタンプを買って、使えるようになります。他の人が使いたいときも、買わないと使えません。他の人が買ったら、儲かる仕組みになっています(個人的に使うので、そこは望んでいませんけど)。みなさんも、お子さんの写真、ペットの写真、自分の写真を使って、お気に入りのスタンプを作ってみたらいかがですか。できない方は、ご相談ください。私が作って差し上げます。ただし、時間と労力があるので、1スタンプ1,000円ですけどね！